

## 平成 25 年度向日市男女共同参画審議会第 2 回会議録

- 1 日時 平成 26 年 3 月 27 日（木） 午後 2 時～3 時 3 0 分
  - 2 場所 向日市役所 第 3 会議室
  - 3 出席者 竹井委員・大束委員・梅本委員・清水委員・高山委員・仲島委員・松本委員・森田委員  
酒井市民生活部長 清水市民生活部次長 八木課長補佐 緒方主査 計 12 人
  - 4 傍聴者 1 名
  - 5 議題 (1) 平成 25 年度男女共同参画事業（市民参画課分）について  
(2) 平成 26 年度男女共同参画事業（市民参画課分）について
  - 6 会議資料  
資料 1 平成 25 年度男女共同参画事業（市民参画課分）  
資料 2 平成 26 年度男女共同参画事業計画（市民参画課分）
- 

### 議事(要約)

#### 1 開会

#### 2 議事

(会長) 傍聴について確認する。

(事務局) 希望者 1 名。

(会長) 傍聴を許可する。

#### (1) 平成 25 年度男女共同参画事業（市民参画課分）について

(会長) 平成 25 年度男女共同参画事業（市民参画課分）について、説明をお願いします。

(事務局) 平成 25 年度男女共同参画事業（市民参画課分）及び資料 1 について説明。

(委員) 資料 1 の 2 頁、女性のための相談事業で、日常相談件数が 2 倍に増加したのはなぜか。

(事務局) DV 相談が増加している。また、市内ネットワークが強化されたことにより、高齢者虐待や児童虐待の背景に DV があり、市民参画課への相談につながるケースも増えた。

(会長) 連携によって、埋もれていたものが見つかりやすくなったということか。

(事務局) そういった事例も多くあった。

(委員) 資料 1 の 2 頁、女性リーダー派遣研修で、2 名の枠で募集をしたが、応募がなかったのはなぜか。

(事務局) 広報で募集をかけたが、参加費用が 2 分の 1 の補助で、宿泊費も参加者負担であるため、無料ではない部分が問題なのかと考えている。

(委員) 昨年度の仙台が開催地だった時に参加したが、今年度の阿南が開催地となったことに疑問を感じた。どれくらいの規模で開催されたのか。

(事務局) 参加者は 2,100 名。阿南市は人口 77,000 人の市で、この規模の市で日本女性会議が開催されたのは初めてである。阿南市の実行委員が積極的に活動をしており、男性もがんばっておられる印象を受けた。また、日本女性会議のタイトルに「男女共同参画」という言葉を加えるなど、男性の視点や参加を積極的に促していた。その結果か、参加者の 2 割ほどが男性であった。また、参加者の最高年齢が 90 歳と、全体的な高齢化は見られたが、阿南市としては、小さな市でも開催できることを証明したかったと話していた。

- (会長) 京都府からはどのくらい参加されていたのか。
- (事務局) 各市から参加されていたと思うが、近畿というくくりで分けられていたため、具体的な人数は分からない。
- (会長) 人数も多いが、分科会のようなかたちに分かれていたのか。
- (事務局) 全体会と分科会の両方があった。
- (会長) 市民の応募がなかったということは、広報しても魅力がなかったということか。
- (事務局) 開催地が問題かもしれないと考えている。昨年度は東北で、震災からの復興もテーマに掲げていた。一昨年が四国の徳島だったこともあり、また四国が開催地になったことも一因かと考えている。
- (会長) 毎年あるのか。
- (事務局) 毎年開催されている。平成 26 年度は札幌で開催される。
- (会長) せっかくの機会なので、女性団体懇話会などにも呼びかけをしてみてもどうか。
- (事務局) 女性団体懇話会にも通知は行っている。今年度開催した女性団体懇話会の研修会でも、過去に女性リーダー派遣研修で日本女性会議に参加された方に呼びかけ、参加してもらった。今後もなんらかのかたちで繋がっていききたい。
- (委員) 様々な事業があるが、今年度の課題はなにか。
- (事務局) 講座や講演会の参加者が全体的に高齢化している。保育ルームを設けるなど、若い方への参加を促しているがまだまだ難しい。また、条例にもあるが、事業所へのアプローチも課題と考えている。仕事をされている方の参加も促していきたい。
- (委員) 相談が増加しているのに対して、相談日は増加しないのか。
- (事務局) 予算計上はしたが、今年度は増加できなかった。
- (委員) 1 回 50 分ではなかなか相談が終わらないと思う。継続も多いのではないかと。相談しようとしても、枠がないのは市民としては悲しいと思う。
- (事務局) 限りある予算であるため、次年度以降も引き続いて申請していきたいと思う。また、1 日の相談枠の中でも、1 枠は新規相談者のために空けておくなどの対応は行っている。
- (会長) キャンセル待ちの枠を設けてはどうか。
- (事務局) 1 枠設けており、キャンセル待ちで入ってもらうこともある。また、相談枠があかないように、相談者に前日に出席の連絡をしてもらうように工夫している。枠は 72 件あるが、それでも連絡もなく来られなかったケースも合わせて 57 件ほどの実績になってしまうため、相談枠の増加を提案しても難しい状態にある。粘り強く進めていきたい。
- (委員) 対面相談ではなく、電話相談はどうか。
- (事務局) 京都府でも電話相談を行っているが、1 回で相談が終わることは少なく、電話に出た相談員にその都度、状態を説明する必要があるなど、不都合も多いと聞いている。
- (会長) 出来るだけ 1 回 3 人の枠を有効に利用できるようにしてほしい。以前に比べて相談件数が増加している。一方で、相談できる場所があることは周知されてきていると思う。
- (会長) いきいきフォーラム実行委員の任期が今年から 2 年に変更されているが、実行委員の再任は可能なのか。
- (事務局) 募集をしているので、応募してもらえれば再任は可能。任期が 1 年の場合は、募集期間にあたる 4 月～5 月が空いてしまうので、今年度は継続して活動できるようになった。

- (会長) フォーラムの企画運営に専念できるということか。
- (事務局) 企画運営だけでなく、勉強会や施設の見学なども行うことができる。今年度のメンバーには男性1名がいるので、男性側の意見を聞くこともできる。
- (会長) 1名と言わず、もっと入ってほしいと思う。
- (委員) 実行委員数10名は、たくさんの応募の中から10名を選んだのか。それとも応募者が10名だったのか。
- (事務局) 定員は設けていないが、10名前後と考えている。今回の場合は、応募者全員が実行委員となっている。
- (委員) せっかく他に講座などがあるのだから、そういった機会に積極的に実行委員を募集してはどうか。
- (会長) いきいきフォーラム実行委員は向日市まつりにもコーナーとして参加している。向日市まつりなど、必ずしも男女共同参画を主目的としないイベントにも入り込んでいくことで、男女共同参画の意識が浸透していけるように、メンバーの方にはがんばってもらいたいと思う。
- (2) 平成26年度男女共同参画事業（市民参画課分）について
- (会長) 平成26年度男女共同参画事業（市民参画課分）について説明をお願いします。
- (事務局) 資料2について説明。
- (委員) 協働センターは寺戸公民館に1箇所あるだけか。情報提供は具体的に何を行っているのか。
- (事務局) 寺戸公民館にあるものだけである。情報提供は、資料や本、ちらしを置いたり、協働センターかけはしのホームページでも情報発信を行っている。スペースが限りあるため、十分ではないと思うが、有効に利用できるよう努力していきたいと考えている。
- (会長) 寺戸公民館は入り口が狭いと思う。ロビーがもっと広々としていれば利用しやすいと思う。
- (委員) 長岡京市のバンビオが広くて使いやすい。
- (事務局) 協働センターを作る際に、利便性の良さと、既存の公共施設の有効利用も合わせて検討し、寺戸公民館の1階スペースを協働センターとすることになった。確かにいろいろな制約があるので、今後も良くなるように対応していきたい。
- (委員) 確かに、協働センターの立地の良さは魅力だと思っている。
- (委員) 第2次向日市男女共同参画プランの第3次への見直しはどうなっているのか。
- (事務局) 第2次向日市男女共同参画プランは10年間のプランとなっており、平成27年度に中間見直しを行う。平成26年度には、中間見直しの前段階として、市民意識調査を行う予定となっている。
- (委員) 京都府のあけぼのプランに、「男性が抱える課題に対応した男女共同参画の推進」という項目がある。現状は被害者への支援ばかりで、加害者に対応していない。そのため、加害者が減ることはないと思う。女性への男女共同参画の啓発は進んできたと思うが、意識していない男性への啓発はあまり行われていない。そういった内容を取り入れてはどうか。
- (委員) 次年度の講座に限った話ではなく、改訂版のプランの中で位置づけて、長期的な視野で推進していくことが重要だと思う。
- (事務局) 第2次向日市男女共同参画プランの基本施策19でも「男性、子どもにとっての男女共同参画」をあげている。しかし、まだ具体的な取り組みができていない現状である。

- (委員) 何年間に1度は男性に対しての取り組みを行うとか、そういった計画はあるのか。
- (事務局) 具体的なものは何もできていない。今の意見を含めて、今後検討していきたい。
- (会長) 6月の講座で、過去にもあったような男性を対象にした講座を行うことも考えてもいいように思う。プランにも組み入れて反映していければいいと思う。
- (委員) 先程、課題として若い方と事業者へのアプローチをあげていたが、それに対応した内容はなにか考えているのか。
- (事務局) 若い方に対しては、具体的なものは何も決まっていらないが、学校への出前講座など、今までにアプローチできていない層への事業を考えている。
- (委員) その中で、先程の男性への啓発であるなら、男の子が今後どう育っていくのかなどの話をしてもらってはどうか。
- (会長) でもそれが、若い方の参加に繋がるかといえば、そうではないと思う。土曜日の午後に講演会をやっているから行ってみようとは思わないのではないかな。
- (事務局) 広報やちらしだけでなく、団体等にも呼びかけを行っているが、参加してみよう、足を運んでみようとなかなかならないように感じている。
- (会長) 講座や講演会に足を運ぶ層が高齢化しているのではないかな。別のかたちのイベントを考えてみるのもひとつの方法かもしれない。
- (事務局) いきいきフォーラム実行委員会でも若い方へのアプローチの問題があり、意見のひとつに、子どもが行きたいと思うようなイベントであれば若い親の世代は付いてくるという意見がある。そういったことも考えながら、いきいきフォーラムも今後どのような企画を行うか考えて行きたい。
- (委員) 以前、男性の生き方をテーマにした講座の講師を務めたことがあるが、その際は若い男性の参加も多く見られた。やはりテーマが変わると思う。
- (委員) 若い方の参加は議題にあがりやすいが、事業者の参加はどうか。
- (事務局) 昨年から商工会と連携をさせていただいて、商工会の会報に講座のちらしを同封したりはしている。
- (委員) どんなテーマであれば、商工会の方は参加されるのか。
- (委員) 優先課題が多すぎる。会報へのちらしもそうだが、商工会でもセミナーをやっているので、そこで配付をすることも出来るのではないかな。
- (会長) 事業者の方はやはり、啓発の講座の方が好きなのか。
- (委員) 例えば、パワハラに対する事業者の役割といったテーマであれば自分たちのこととして捉えてもらえるのではないかな。
- (委員) 会社も中小経営が多いので、会社のことというよりは家庭のことと考えているのではないだろうか。
- (委員) 「会社でハラスメントが起こったとき」とか、そういったテーマで講座をしてみてもどうか。
- (委員) 危機管理とかの視点の方がよいと思う。近年では雇用される側の相談機関も充実してきたため、雇用者も気をつけなくてはいけない部分ではある。意識は高まっていると思う。
- (会長) 雇用者も雇用される側も知っておいた方がいい内容で、色々な方に関心をもってもらえるのではないかな。
- (委員) 切り口は、よくありがちなパターンで、こういうことがもしかしたら問題になるかもしれないという話の方が、興味を持ってもらえると思う。固いテーマだと敬遠される。

- (事務局) 商工会はいろんなセミナーをしているが参加率が高いと思う。そこに行政が乗っかることは可能か。
- (委員) 可能だと思う。
- (事務局) 商工会主催でしていただいて、そこに男女共同参画の視点の講座をいれることができれば、参加もしてもらえと思う。
- (委員) 青年部や女性部もあるし、若い方もいる。特に青年部は意識レベルにもないと思うので、逆に新鮮かもしれない。
- (会長) 行政でやるなら行かないと思う方にも参加しやすいかもしれない。共同でできるのなら相乗効果で、いい案だと思う。
- (事務局) また商工会事務局の方に、提案させていただく。
- (委員) 女性リーダー派遣研修等に対する助成のあり方は次年度も変わらないのか。
- (事務局) 変わらない。定員2名で、2分の1補助となっている。
- (委員) 積極的に進めていきたいのならば、定員を増やすことはできないのか。
- (事務局) 次年度は、定員1名を全額補助で考えていたが、予算が通らず、定員2名の2分の1補助となった。
- (委員) 状況は分かるが、女性リーダー派遣研修で行ってもらった方に、今後の向日市を引っ張ってもらおうつもりならば、もう少し助成があってもいいと思う。札幌などであれば、2分の1補助があっても金額は大きいと思う。
- (委員) 予算を集中することはできないのか。毎年同様に予算を均等に割り振っていても変わらないと思う。若い方への啓発であれ、事業所への啓発であれ、予算を数年、集中してそこにあてることができれば、変化はあると思う。今のままでは変わらない。難しいと思うが、検討してほしい。
- (会長) プランの中にも重点施策と書いてあるものもあるので、検討してほしい。
- (事務局) 次年度以降で対応していきたい。
- (委員) 女性リーダー派遣研修に参加してきた方が、戻ってきて成果を活かす場がないように思う。
- (事務局) その場として、今年度、女性団体懇話会の研修会を開催した。今後、その研修会で発表を行っていただけると考えている。
- (委員) 必要だと思う。市の方にはレポートを出しているのか。
- (事務局) そうだ。
- (委員) レポートだけではもったいない。発表や報告を行うことで、助成金もいきてくると思う。
- (委員) 日本女性会議は独特の雰囲気があるので、行って見て感じるものがあると思う。実際に参加することで感じるものがある。過去に京都であった時と同様に、近畿などで開催することがあれば、多くの団体に声をかけて参加を促すべきだと思う。
- (会長) 日本女性会議と女性の船は違う事業なのか。
- (事務局) 女性の船は京都府の事業になるので違う。市の事業ではないが、2年前から職員研修の一環として職員2名が毎年参加している。
- (会長) 日本女性会議は広報が課題かもしれない。行った方がよかったと言っているなので、行ってみたいと思わせるような広報や報告があればいいのかもしれない。
- (事務局) 努力していく。
- (会長) 以上で本日の審議について終了した。

事務局 次長 閉会挨拶

以 上